編集後記

コロナ禍も２年目に突入し，2021 年は不自由なりにも社会が少しずつ動き始めました．賛否はあったものの，1 年越しで “ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック ” が開催されました．無観客での開催でしたが，昨今の通信技術の進歩により多くの人々が臨場感あふれる映像を通して，真剣なまなざしで競技に向かうアスリートの姿に感動されたことと思います．オリンピックに限らず，コロナ過で人と対面することが強く制限されたことによって，通信技術の進歩や普及が加速し，画像通信が個人レベルでもコミュニケーション手段として簡単に利用できるようになり，これは教育や研究の場でも大きく役に立ちました．コロナ禍の功罪のせめてもの功の部分といえましょう．

さて，第 25・26 号合併号となった本誌には，報告 1 報と記事３編が掲載されています．報告は看護師の個人のライフの語りから「看護観」の形成・変遷の過程を見出そうとしたものです．人は生きていく中で様々なことを経験し感じ思考し変化していく．人の感じ方や考え方は多様で一般化できるものばかりではないですが，「語り」を通してひとりの先輩看護師の心の中に触れることができる興味深いものと思います．看護師を目指す学生だけでなく医療従事者を目指す本学の多くの学生にも是非読んでいただきたいです．また，記事には，2020 年度学内研究助成成果報告書，2020 年度全学横断的シンポジウム講演抄録、および 2020 年度全学研究ポスターワークショップの 3 編が掲載されています．いずれも，本学研究部による本学の研究活動を後押しするための継続的な取り組みです．全学横断的シンポジウムは2011年から学内の研究活性化や大学のブランディング研究の推進などを目的とし毎年開催されています．2019 年度は残念ながらコロナ禍により中止となりましたが，2020 年度は「トランスレーションリサーチ～東洋医学と西洋医学の接点を探る～」と題して，オンラインで開催されました．トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）は，一般的にはアカデミアで見いだされた知見を応用し実用化するために行う研究とされていますが，本学シンポジウムでは，東洋医学と西洋医学のそれぞれを軸とする研究をつなぐ，本学ならではの新しい研究を探求しようと企画されています．いずれの記事も，本学の研究の特徴がよく表現されていますので，是非ご一読ください．

明治国際医療大学誌編集委員会
委員長　糸井マナミ